

## 第2分科会提案「コンピュータ学習の実践的研究」

— マルチメディアソフトを利用したパソコン通信ディベート —

東京都荒川区立第五峡田小学校 小池 孝之

### 1. 実践の概要

小学校6年生の社会科の「世界の中の日本」という単元での授業実践である。「日本はアメリカからコメを輸入すべきか」というテーマで2校間でパソコン通信のチャットを利用したディベートを行った。その際自分たちの主張をマルチメディアソフトを利用してプレゼンテーションした。

### 2. 実践のねらい

昨今、児童の論理的思考を育成するものとして、ディベートが注目されている。

一方、教育分野でのコンピュータの利用が盛んになるにつれ、マルチメディアやパソコン通信の活用も広まってきている。

本実践はパソコン通信とディベートを組み合わせた通信ディベートを学習の中でどう利用していくか、またその際に児童の主張をより効果的に表現する手段としてどのようにマルチメディアソフトが利用できるかを明らかにしようとした実践である。

またその際、本実践の中で学習を進めていく児童の様々ななかたちの協同学習についても考慮した。

・通信ディベートにおける協同学習

(ディベートチーム、他地域の学級との協同、相手チームに対する意識から生まれる緊張関係のある協同学習)

### 3. 事前のしかけ

#### <自由バズ>

相手にわかるように話す、またはきちんとポイントをとらえて聞くことが情報活用能力には不可欠だと考え、普段の授業の中で自由バズを取り入れている。

子どもたちにフロッピーディスクのケースを利用したアナライザーを持たせ、これを自由バズでも活用している。主に算数の時間に理解度に合わせ、自由バズを行っているが、国語や社会でも時として行われている。普段の学習班にとらわれない、自由なグループ学習ができています。

#### <ブレインストーミング>

ディベートの立論作りに活用している。自由に意見が言え、それを一切否定されないというのは、思った以上に効果があった。ゲーム感覚もあるので普段の班学習以上に意見が出る。

グループで学習することが子どもたちの意欲を引き出している。

#### <ディベート>

5年生の時から学期に2回くらいの割合で行ってきた。立論の作り方に関しては独自の工夫をした。各自が書いた原稿用紙1枚程度の立論を班で回し読みし、良いと思うところに赤鉛筆で線を引いていく。班全員の立論をそれぞれが読み終わったところで、赤線のついたそれぞれの原稿を持ち寄り班としての立論を作成することにした。自分の書いた立論の良いところを他の人から評価され、さらにみんなのいいところを持ち寄って立論を作ることにより、全員が満足感を持てる活動となった。

また通常のチームディベートでは判定のための項目に「チームワーク」を設定し、どの子どもきちんとした役割を持って学習にのぞめるようにした。

さらに、6年生になってからは一人一人の力と参加度を一層高めるため、個人ディベートも取り入れた。これは、肯定側1人、否定側1人、司会・審判役1人という3人1組でのディベートである。

#### <プレゼンテーション>

国語の説明文をマルチメディアソフトを使って、他の人たちに説明したり、歴史のまとめとして、またプレゼンテーションの練習として時代ディベートを行ったりした。

後者は、縄文と弥生、鎌倉と室町といった時代でどちらがいい時代かといういささか荒唐無稽なディベートであるが、資料の収集、選択、まとめ、伝達という力を付けるにはうってつけであった。またこれらをコンピュータを使ってまとめていく中で、児童間で明確な役割分担がされていった。

#### <パソコン通信>

パソコン通信のチャットを利用して、他地域の学級との交流を楽しんだ、またメールのやりとりも若干経験する事ができた。

### 4. 実践の展開

#### (1)対象学年・教科・単元

小学校第6学年  
社会科「世界の中の日本」

#### (2)ねらい

中国やアメリカ合衆国の農家などの学習が終わった時点で、日本とアメリカ合衆国間での懸案事項をディベートの手法を使って討議することによって国際協調の精神を学ばせる。

### (3) 学習の流れ

#### ① 論題提示

論題「日本はカリフォルニア米を輸入すべきか」

#### ② ディベートチーム分け

[A区G小学校側]

A：日本側（輸入すべきではない）

B：アメリカ側（輸入すべき）

C：国連調停委員会

[C区N小学校側]

A：アメリカ側

B：日本側

C：国連調停委員会

#### ③ リサーチ

- ・フィールドワーク  
米穀店、寿司店など  
(デジタルカメラ、テープレコーダー等使用)
- ・電話取材  
農林水産省、アメリカ大使館、デパート食品売場等
- ・ファックス取材  
USライスインフォメーション
- ・Eメール取材  
農林水産省、米国在住協力者(インターネット利用)
- ・パソコン通信取材  
PC-VAN公官庁情報へのアクセス
- ・データベース検索  
朝日新聞データベース

#### ④ マルチメディアソフトによるまとめ

- ・統一条件(画面4枚以内)

[A区G小学校側]

<スーパーYUKI(NECソフト)使用>

(WIN3.1パソコン利用)

[C区N小学校側]

<発表の道具箱(中央区作成ソフト)使用>

(MAC利用)

## ⑤立論作成

## ⑥通信ディベート1

○立論（マルチメディアソフトをみながら。）

### 【児童の主な論点】

#### [日本側]

- ・日本の米の方がおいしい
- ・カリフォルニア米はポストハーベストのせいで危険
- ・寿司などにはカリフォルニア米はむかない・田圃が水資源を守っている など

#### [アメリカ側]

- ・カリフォルニア米は安い
  - ・貿易不均衡解消
  - ・カリフォルニア米もおいしい など
- 反対尋問及び調停

## ⑦通信ディベート2

○最終弁論及び調停案

### [調停案]

- ・カリフォルニア米を欲する日本の消費者のために各都道府県に専売店を作る
- ・アメリカ側は農薬の安全性を高める
- ・日本は貿易不均衡を改める努力をする など

## 5. 考察

このような授業によって以下のような知見を得ることができた。

### (1)本実践における通信ディベートの効果

パソコン通信のチャットを利用したディベートにおける遠隔地の相手との共同学習の効果についてはすでに報告をした。(1995年:湯澤ら\*1)本実践は通信ディベートを学習の目標から手法へと進めたものであり、そのことから次のことが明らかになった。

---

\*1参考文献 湯澤齊之・小池孝之・堀田龍也(1995):日本教育情報学会論文  
「小学校におけるパソコン通信を利用したディベートの授業実践」

## ①ディベートの手法を取り入れたことによる情報発信の必然性と学習の深まり

本格的な情報化時代迎え、情報発信者としての資質が求められている。ここで問題になるのは児童にとっての情報発信の必然性である。本実践ではディベートの手法を取り入れさらにそれをパソコン通信上で行ったことにより「相手側に自分たちの主張を伝える」ことが学習の主題となった。これらは、情報発信の必然性を無理なく児童に持たせることになった。また相手を意識することで学習が深まりを見せることにもなった。

## ②調停役を設定したことによる効果

立場の違う主張を「国際協調」の視点から統合していこうとするのは、本来的なディベートにはない要素である。しかしながら勝ち負けを論理的に競うゲームとしてのディベートに調停役を置くことによって学習の質が深化した。

すなわち、ディベート本来のゲーム性を損なうことなく、論理の技術的な巧拙だけではない実質的な学習の深まりを児童が体験できたのである。またこのような態度は、現在ときによっては深刻な問題に発展しているネットワーク上の対立を解決する一助になると考える。

## (2) コンピュータやマルチメディアソフトの利用がもたらす効果

### ①取材方法の多様さを保証するコンピュータやマルチメディアソフト

本実践では、電話、ファックス、Eメールによる取材や、テープレコーダーとデジタルカメラを使ったフィールドワークやデータベースへのアクセス等が行われた。これらはリサーチの過程で自然に児童が選択していったものである。

この選択を可能にしているのは、先行経験としてのコンピュータの存在そのものであった。また、使い慣れたマルチメディアソフトの表現力を児童が熟知していることがそれらを支えていた。

### ②プレゼンテーションの道具としてのマルチメディアソフトの有効性

マルチメディアソフトの利用法は様々だが、本実践を通してその有効性を最大限に発揮できるのがプレゼンテーションだと確信した。

相手に何かをプレゼンテーションするにあたって音声、画像、文字等を一元的に扱えるマルチメディアソフトは大変に有効であった。またフィールドワークで得た情報（音声・画像等）をそのまま生かせる点も大きな利点であった。

## (3) 本実践における協同学習の効果

### ①役割分担が確立されたディベートのチーム

相手を説得するという共通の目的意識を持ったディベートのためのチームには他では見られない特徴があった。

活動が活発な児童とあまり活発ではない児童というふうになりがちなグループ学習に於いて、初期の段階から役割分担がはっきりと自覚され、活動の量というより質の面で、それぞれがちがった活動を行っていた。プロジェクトチームといった感があり、児童個々の

活動は満足の出来るものだった。これはディベートが活動のモチベーションを明確にし、さらに維持していく上で有効であるからだと考える。また、コンピュータでプレゼンテーションソフトを作っていくという目的も、分業が可能な分グループ学習に適していた。

## ②他地域の学級との協同学習

本実践では、パソコン通信を利用することで他地域の児童との協同学習が可能となった。それは、通信ディベートの当日だけでなく、他の場面でも行われた。

学級対学級という図式ではなく相手校にも同じ主張をするチームがいるので、事前に情報を交換したいという要求が児童の間から出てきた。「お米の食べ比べ」のところではそのような連携が実際に出来た。

他地域の学級とのディベートは、児童数減少により単学級となっている学級では新鮮な刺激となった。また単学級でないクラスでも、普段接しない地域の児童との協同学習は、学習を進めていく上での強い動機付けになった。

## 6. まとめ

通信ディベートを学習の手段として用いることによって、情報発信者としての資質が養われることは本実践からも明らかだが、さらに重要なのは情報発信の必然性や動機付けが明確になることだと考える。このことにより学習者個々の問題意識も高まっていった。

すなわち他者に向けての情報発信が最終的には個に返ってきているのである。

また、教育でのマルチメディアの利用が言われて数年がたつが、マルチメディアが自己表現や相手へのプレゼンテーションの手段として大変有効であることがわかった。音声や画像という素材をテキスト化したり、抽象化したりしないで表現できる、マルチメディアソフトは児童にとって最善の自己表現ツールだといえるだろう。

このような学習においては、学習過程で大変有効に協同学習が成立した。

これは、協同学習が目的意識がはっきりとすることで活性化したからだと考える。またマルチメディアソフトを利用したプレゼンテーション作成においては協同学習なしには学習が進められないといった側面がある。

今後は児童の問題意識を最優先させた教科の枠にとらわれない総合的な学習のなかで、以上のような実践を再度構築することを予定している。

# いじめをなくす教科指導の試み

—— 生徒一人一人が生き生きとして楽しめる授業 ——

東京都清瀬市立清瀬第四中学校

## I. 研究の概要

### 1. 研究主題

「いじめをなくす教科指導の試み」

—— 生徒一人一人が生き生きとして楽しめる授業 ——

### 2. 研究の目標

- (1) 生徒一人一人の個性を尊重し、分かりやすく楽しい授業を行う。
- (2) グループでの協同学習を通して、援助と協力関係を大切にしようとする態度を育て、好ましい人間関係を育成する。

### 3. めざす人間像

「自ら学ぶ意欲を持ち、自他の良さを認め生かしながら、協同して課題解決に取り組む生徒」

### 4. 研究の仮設

いじめをなくすことは、一朝一夕に出来るものではない。いじめ克服は大きな問題であり多くの方策が考えられるが、学校・家庭・地域社会の協力が絶え間無い実践こそが、それを可能にすると考えた。

そこで、学校での実践としては、いじめ克服に役立つ、生徒に備えさせたい資質を育むことにした。

#### (1) 生徒に備えさせたい資質

##### 1) 存在感

- ・生きることを喜び、存在を認められる。  
(学校では、来がいを持たせる)

##### 2) 生きがい

- ・望みや目標をもたせる。  
(学校では、よさを認め自信をつけ遠い・近い将来への進路計画を持たせる)

##### 3) やりがい

- ・やってよかったという成就感、他人に認められ感謝され社会の為になっていることを実感させる。  
(学校では、委員・係活動を認め合う)

#### (2) 教科指導の場で開発を目指す資質・能力

##### 1) 目標・夢を持つ

##### 2) 意欲

##### 3) 具体的な力(問題解決能力)

##### 4) 人間としての支え、共生(共に生きる仲間、誉めたり励ましたり仕合える仲間)

##### 5) 癒し(慰め合い、時には苦しいことから離してやる、緩急が必要)

### 5. 生徒一人一人が生き生きとして楽しめる授業に対する考え方

本校では、「生徒一人一人が生き生きとして楽しめる授業」として、次のような研究実践を進めることにした。

- (1) 笑顔で入室するなど生徒との出会い時の態度に気を付ける。



- (2) 否定的な言葉や態度で授業をしない。
- (3) 学習準備、学習態度が出来ていない生徒に対し、原因を探り、援助・指導する。
- (4) 教師の思惑と違う考えや誤答を大切に学習をする。
- (5) 生徒が安心して発言できる学習の雰囲気造りをする。
- (6) 学習に遅れがちな生徒も学習中に活躍できる場を確保する。
- (7) 学習に遅れがちな生徒、つまづいている生徒に個別指導を行う。
- (8) 生徒の多様な考えが発揮できる場を意図的に設定する。
- (9) まとめの段階で、生徒の理解度の把握に努める。

#### 6. 研究の概要

- (1) 授業・自己評価
- (2) 自己評価のまとめ
- (3) 数学教科部会
- (4) 学年会
- (5) 校内研修
- (6) 学校体制（授業公開・P T A・地域連携）

#### 7. 資料

- (1) 指導案
- (2) 自己評価票
- (3) 自己評価のまとめ



平成8年度 ア：授業は楽しかったか イ：問題は理解できたか ウ：班で意見が言え  
 表の見方：ア1、イ1、ウ1は1限のア、イ、ウの評価を示す以下同様

番	ア1	イ1	ウ1	ア2	イ2	ウ2	ア3	イ3	ウ3	ア4	イ4	ウ4	ア5	イ5
1		5	3	3	5	5	5	3	3	3	3	3	4	5
2		4	2	2	4	4	3	4	3	2	4	3	3	5
3		2	2	1	2	2	2	2	1	1	2	2	2	2
4		4	3	3	4	4	2	4	4	4	4	4	2	5
5														
6		5	3	2	5	5	5	5	5	5	4	4	5	5
7		3	2	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5
8		3	1	1	5	4	1	5	5	5	5	4	5	5
9		4	3	1	2	5	1	1	5	1	1	5	2	2
10		4	3	3	3	3	3	5	5	5	5	4	5	5
11		3	2	2	5	4	4	5	5	4	5	4	4	5
12		5	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
13		4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
14		5	4	1	3	5	2	3	5	3	4	4	4	3
15		3	3	1	5	5	5	5	5	5				5
16		4	2	1	4	4	3	3	2	2	3	2	2	3
31		5	2	3	5	4	3	5	4	5	4	4	5	5
32		5	2	3	5	4	3	5	4	3	5	4	3	5
33		3	3	3	4	4	4	4	5	4	5	2	3	5
34		5	5	2	4	4	3	4	3	3	4	4	3	4
35		4	1	1	5	5	1	3	3	1	5	4	5	4
36		5	3	1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
37		3	3	1	2	3	1	2	2	3	2	3	1	2
38		4	2	4	5	5	3	5	5	5	5	5	5	5
39		5	4	3	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
40		4	3	1	4	4	3	5	5	5	4	3	4	5
41		4	5	3	3	5	5	3	5	4	5	5	5	5
42		4	4	4	5	5	4	5	5	4	4	5	4	4
43		4	3	3	5	4	3	5	5	5	5	3	4	
44		3	1	1	4	4	3	4	4	4				2
45		4	3	3	5	4	3	5	4	5	5	5	5	5
46		2	2	2	3	3	2	2	2	2	3	2	3	3
47		4	3	3	5	4	5	5	5	4	5	4	4	4
48														

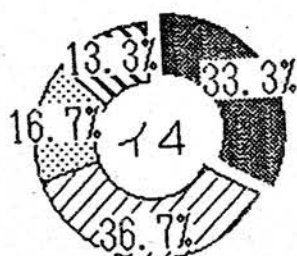
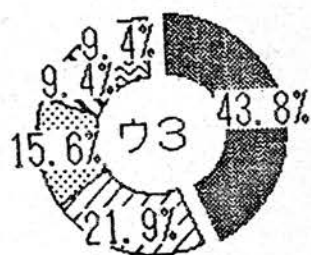
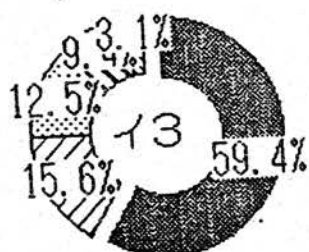
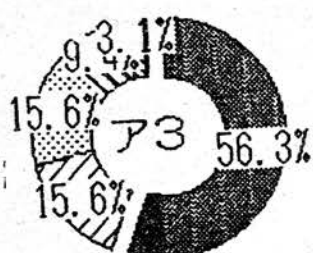
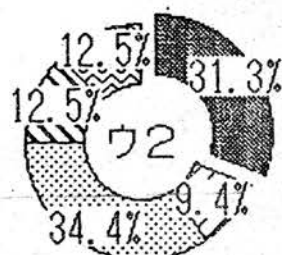
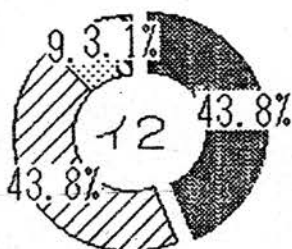
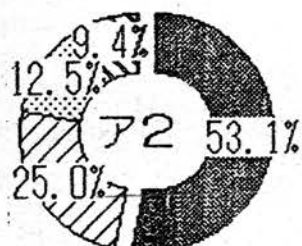
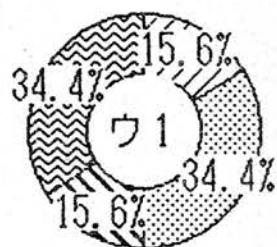
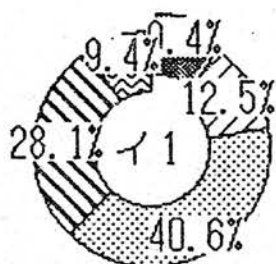
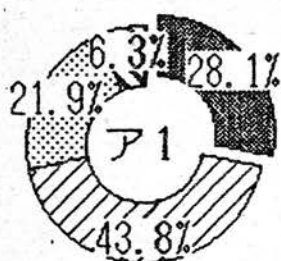
5の度数	9	3	0	17	14	10	18	19	14	16	10	13	20
4の度数	14	4	5	8	14	3	5	5	7	8	11	7	4
3の度数	7	13	11	4	3	11	5	4	5	3	5	5	3
2の度数	2	9	5	3	1	4	3	3	3	2	4	4	4
1の度数	0	3	11	0	0	4	1	1	3	1	0	1	0

たか

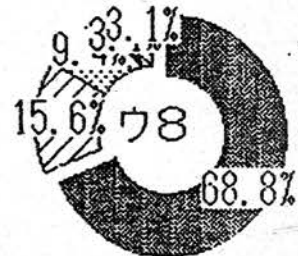
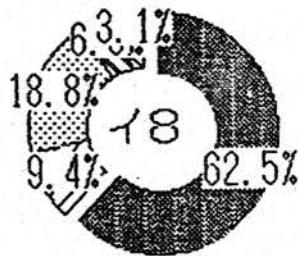
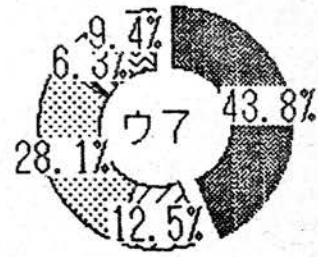
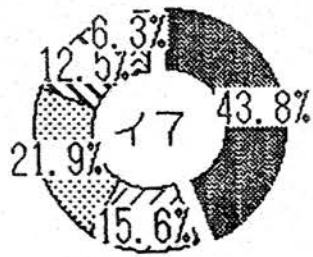
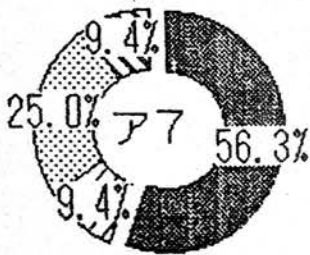
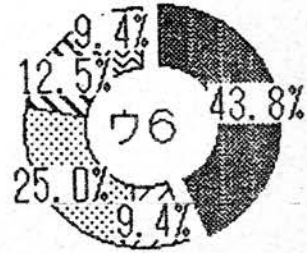
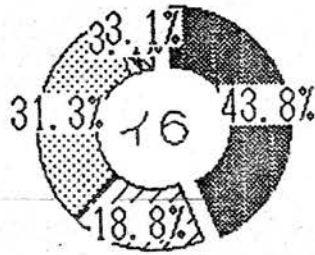
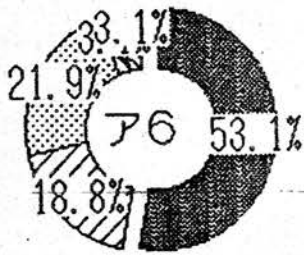
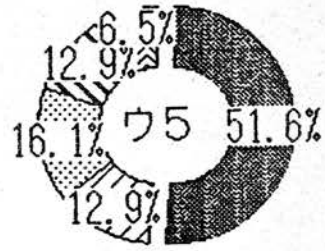
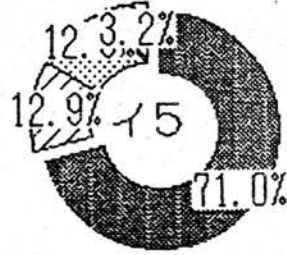
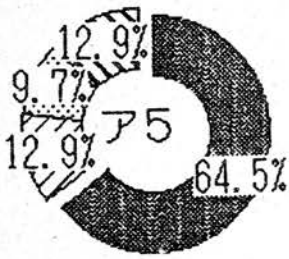
5	ウ5	ア6	イ6	ウ6	ア7	イ7	ウ7	ア8	イ8	ウ8	5の	4の	3の	2の	1の	度数
5	5	5	5	5	4	2	4	3	3	3	10	3	10	1	1	
4	3	4	4	3	3	3	3	4	3	3	1	8	11	2	2	
2	2	3	3	3	5	4	3	5	5	5	5	2	5	10	3	
5	4	5	5	4	5	4	2	5	3	4	6	12	2	4	0	
					5	1	1				1	0	1	0	3	
5	5	3	3	3	3	2	3	4	3	3	11	3	8	1	1	
5	5	5	5	5				5	5	5	17	2	0	1	0	
5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	5	17	3	1	1	2	
5	2	1	5	1	2	5	3	5	5	5	10	0	1	5	7	
5	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5	16	3	4	1	0	
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	17	5	0	0	0	
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	23	1	0	0	1	
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	21	2	0	1	0	
5	3	4	5	4	3	4	3	5	5	5	8	7	7	1	1	
5	1	5	3	3	5	5	5	5	5	5	15	0	2	2	2	
3	2	3	3	2	4	4	3	5	5	4	3	5	8	7	0	
											0	0	0	0	0	
											0	0	0	0	0	
5	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5	17	5	2	1	0	
5	3	5	3	3	5	5	5	5	5	5	13	3	8	0	0	
5	5	5	3	3	5	3	4	5	2	5	9	6	6	3	0	
4	4	3	2	2	3	3	4	5	5	5	6	9	8	3	0	
3	2	4	3	1	3	3	3	4	3	2	4	6	10	3	3	
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	22	0	0	0	0	
4	1	2	3	1	2	3	1	5	2	1	2	1	5	8	8	
5	5	5	3	5	5	5	5	5	5	5	19	1	2	1	1	
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	22	1	1	1	2	
4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	13	6	2	1	0	
5	5	4	5	5	5	5	5	4	5	5	18	3	5	0	0	
5	3	3	4	2	3	3	2	4	4	5	8	10	5	3	0	
		4	4	4	3	2	3	5	4	4	7	7	5	1	1	
3	5	3	1	2	2	1	1	5	1	5	3	6	6	3	4	
5	5	5	5	5	5	4	5	5	5	5	17	3	3	1	0	
3	3	3	3	3	3	3	4	2	3	4	0	2	13	7	0	
5	4	4	4	3	4	2	3	5	5	4	8	11	4	1	1	
											0	0	0	0	0	

22	16	17	14	14	18	14	14	25	20	22
4	4	6	6	3	3	5	4	5	3	5
4	5	7	10	8	8	7	9	1	6	3
1	4	1	1	4	3	4	2	1	2	1
0	2	1	1	3	0	2	3	0	1	1

■ 5の度数    ▨ 4の度数    ▩ 3の度数    ▤ 2の度数    ▦ 1の度数







平成8年度 ア：授業は楽しかったか

イ：問題は理解できたか

3年A組 ウ：班で意見が言えたか

番	ア1	ア2	ア3	ア4	ア5	ア6	ア7	ア8	5の	4の	3の	2の	1の
1	5	5	3	3	5	5	4	3	4	1	3	0	0
2	4	4	4	4	5	4	3	4	1	6	1	0	0
3	2	2	2	2	2	3	5	5	2	0	1	5	0
4	4	4	4	4	5	5	5	5	4	3	0	0	0
5							5		1	0	0	0	0
6	5	5	5	4	5	3	3	4	4	2	2	0	0
7	3	4	5	5	5	5		5	5	1	1	0	0
8	3	5	5	5	5	5	5	5	7	0	1	0	0
9	4	2	1	1	2	1	2	5	1	1	0	3	3
10	4	3	5	5	5	5	5	5	6	1	1	0	0
11	3	5	5	5	5	5	5	5	7	0	1	0	0
12	5	5	5	5	5	5	5	5	8	0	0	0	0
13	4	5	5	5	5	5	5	5	7	1	0	0	0
14	5	3	3	4	3	4	3	5	2	2	4	0	0
15	3	5	5		5	5	5	5	6	0	1	0	0
16	4	4	3	3	3	3	4	5	1	3	4	0	0
31	5	5	5	4	5	5	5	5	7	1	0	0	0
32	5	5	5	5	5	5	5	5	8	0	0	0	0
33	3	4	4	5	5	5	5	5	5	2	1	0	0
34	5	4	4	4	4	3	3	5	2	4	2	0	0
35	4	5	3	5	4	4	3	4	2	4	2	0	0
36	5	5	5	5	5	5	5	5	8	0	0	0	0
37	3	2	2	2	2	2	2	5	1	0	1	6	0
38	4	5	5	5	5	5	5	5	7	1	0	0	0
39	5	5	5	5	5	5	5	5	8	0	0	0	0
40	4	4	5	4	5	5	5	5	5	3	0	0	0
41	4	3	3	5	5	4	5	4	3	3	2	0	0
42	4	5	5	4	4	3	3	4	2	4	2	0	0
43	4	5	5	5		4	3	5	4	2	1	0	0
44	3	4	4		2	3	2	5	1	2	2	2	0
45	4	5	5	5	5	5	5	5	7	1	0	0	0
46	2	3	2	3	3	3	3	2	0	0	5	3	0
47	4	5	5	5	4	4	4	5	4	4	0	0	0
48													

5の度数	9	17	18	16	20	17	18	25
4の度数	14	8	5	8	4	6	3	5
3の度数	7	4	5	3	3	7	8	1
2の度数	2	3	3	2	4	1	3	1
1の度数	0	0	1	1	0	1	0	0

平成8年度 ア：授業は楽しかったか

イ：問題は理解できたか

3年A組 ウ：班で意見が言えたか

番	氏名	イ1	イ2	イ3	イ4	イ5	イ6	イ7	イ8	5の	4の	3の	2の	1の	度
1		3	5	3	3	5	5	2	3	3	0	4	1	0	
2		2	4	3	3	4	4	3	3	0	3	4	1	0	
3		2	2	1	2	2	3	4	5	1	1	2	3	1	
4		3	4	4	4	5	5	4	3	2	4	2	0	0	
5								1		0	0	0	0	1	
6		3	5	5	4	5	3	2	3	3	1	3	1	0	
7		2	5	5	5	5	5		5	6	0	0	1	0	
8		1	4	5	4	5	5	5	4	4	3	0	0	1	
9		3	5	5	5	5	5	5	5	7	0	0	0	1	
10		3	3	5	4	5	4	5	5	4	2	2	0	0	
11		2	4	5	4	5	5	5	5	5	2	0	1	0	
12		5	5	5	5	5	5	5	5	8	0	0	0	0	
13		4	5	5	5	5	5	5	5	7	1	0	0	0	
14		4	5	5	4	5	5	4	5	5	3	0	0	0	
15		3	5	5		5	3	5	5	5	0	2	0	0	
16		2	4	2	2	3	3	4	5	1	2	2	3	0	
31		2	4	4	4	5	4	5	5	3	4	0	1	0	
32		2	4	4	4	5	3	5	5	3	3	1	1	0	
33		3	4	5	2	5	3	3	2	2	1	3	2	0	
34		5	4	3	4	4	2	3	5	2	3	2	1	0	
35		1	5	3	4	3	3	3	3	1	1	5	0	1	
36		3	5	5	5	5	5	5	5	7	0	1	0	0	
37		3	3	2	3	4	3	3	2	0	1	5	2	0	
38		2	5	5	5	5	3	5	5	6	0	1	1	0	
39		4	5	5	5	5	5	5	5	7	1	0	0	0	
40		3	4	5	3	4	5	5	5	4	2	2	0	0	
41		5	5	5	5	5	5	5	5	8	0	0	0	0	
42		4	5	5	5	5	4	3	4	4	3	1	0	0	
43		3	4	5	3		4	2	4	1	3	2	1	0	
44		1	4	4		3	1	1	1	1	2	1	0	4	
45		3	4	4	5	5	5	4	5	4	3	1	0	0	
46		2	3	2	2	3	3	3	3	0	0	5	3	0	
47		3	4	5	4	5	4	2	5	3	3	1	1	0	
48															

5の度数	3	14	19	10	22	14	14	20
4の度数	4	14	5	11	4	6	5	3
3の度数	13	3	4	5	4	10	7	6
2の度数	9	1	3	4	1	1	4	2
1の度数	3	0	1	0	0	1	2	1

平成8年度 ア：授業は楽しかったか  
 イ：問題は理解できたか  
 ウ：班で意見が言えたか

番	氏名	ウ1	ウ2	ウ3	ウ4	ウ5	ウ6	ウ7	ウ8	5の	4の	3の	2の	1の	度
1		3	5	3	4	5	5	4	3	3	2	3	0	0	0
2		2	3	2	3	3	3	3	3	0	0	6	2	0	0
3		1	2	1	2	2	3	3	5	1	0	2	3	2	2
4		3	2	4	2	4	4	2	4	0	4	1	3	0	0
5								1		0	0	0	1	0	0
6		2	5	5	5	5	3	3	3	0	4	3	1	0	0
7		4	5	5	5	5	5		5	6	1	0	0	0	0
8		1	1	5	5	5	5	5	5	6	0	0	0	0	2
9		1	1	1	2	2	1	3	5	1	0	1	2	4	4
10		3	3	5	5	5	5	5	5	6	0	2	0	0	0
11		2	4	4	4	5	5	5	5	4	3	0	1	0	0
12		4	5	5	5	5	5	5	5	7	1	0	0	0	0
13		4	5	5	5	5	5	5	5	7	1	0	0	0	0
14		1	2	3	4	3	4	3	5	1	2	3	1	1	1
15		1	5	5		1	3	5	5	4	0	1	0	2	2
16		1	3	2	2	2	2	3	4	0	1	2	4	1	1
31		3	3	5	5	5	5	5	5	6	0	2	0	0	0
32		3	3	3	3	3	3	5	5	2	0	6	0	0	0
33		3	4	4	3	5	3	4	5	2	3	3	0	0	0
34		2	3	3	3	4	2	4	5	1	2	3	2	0	0
35		1	1	1	5	2	1	3	2	1	0	1	2	4	4
36		1	5	5	5	5	5	5	5	7	0	0	0	0	1
37		1	1	3	1	1	1	1	1	0	0	1	0	7	1
38		4	3	5	5	5	5	5	5	6	1	1	0	0	0
39		3	5	5	5	5	5	5	5	7	0	1	0	0	0
40		1	3	5	4	4	5	5	5	4	2	1	0	1	1
41		3	5	4	5	5	5	5	5	6	1	1	0	0	0
42		4	4	4	4	3	2	2	5	1	4	1	2	0	0
43		3	3	5	4		4	3	4	1	3	3	0	0	0
44		1	3	4		5	2	1	5	2	1	1	1	2	2
45		3	3	5	5	5	5	5	5	6	0	2	0	0	0
46		2	2	2	3	3	3	4	4	0	2	3	3	0	0
47		3	5	4	4	4	3	3	4	1	4	3	0	0	0
48															

5の度数	0	10	14	13	16	14	14	22
4の度数	5	3	7	7	4	3	4	5
3の度数	11	11	5	5	5	8	9	3
2の度数	5	4	3	4	4	4	2	1
1の度数	11	4	3	1	2	3	3	1



平成8年度 自己評価の理解度とポストテストの対応

NO	2限		3限		5限		6限		7・8限		計・備考
	12	3問	13	1問	15	1問	16	3問	17	3問	
1	5	2	3	0	5	0	5	1	2	0	3
2	4	1	3	1	4	1	4	3	3	1	7
3	2	0	1	0	2	0	3	0	4	0	0
4	4	2	4	1	5	1	5	3	3	1	8
5									1		
6	5	2	5	0	5	1	3	1	2	1	7
7	5	2	5	0	5	1	5	3	5	3	9
8	4	3	5	0	5	1	5	2	4	1	7
9	5	3	5	1	5	1	5	3	5	3	11
10	3	3	5	0	5	0	4	3	5	2	8
11	4	2	5	0	5	0	5	3	5	0	5
12	5	3	5	1	5	1	5	3	5	3	11
13	5	3	5	1	5	1	5	2	5	2	9
14	5	3	5	0	5	1	5	3	4	1	8
15	5	3	5	0	5	1	3	1	5	1	6
16	4	3	2	1	3	1	3	3	4	2	10
31	4	3	4	1	5	1	4	2	5	1	8
32	4	2	4	1	5	1	3	3	5	1	8
33	4	3	5	1	5	0	3	2	3	3	9
34	4	3	3	0	4	1	2	3	4	2	9
35	5	2	3	0	3	0	3	3	3	1	6
36	5	3	5	1	5	1	5	3	5	3	11
37	3	0	2	0	4	1	3	1	2	3	5
38	5	3	5	1	5	1	3	3	5	3	11
39	5	2	5	1	5	1	5	3	5	3	11
40	4	3	5	1	5	1	5	3	5	3	11
41	5	2	5	1	5	1	4	3	4	3	10
42	4	3	5	1	*	0	4	3	3	0	7
43	4	3	4	1	3	1	1	1	1	2	8
44	4	3	4	0	5	1	5	1	4	1	6
45	3	0	2	0	3	0	3	0	2	0	0
46	4	3	2	0	3	0	3	2	3	3	8
47	4	2	5	0	5	1	4	3	3	1	7
集		18						20		11	
2		10						5		5	
1		1		16		23		5		11	
0		3		16		9		2		5	
計		75		16		23		75		54	244
平均(%)		78		50		72		78		56	69%

ポストテスト S-P表 3年 A組

番号	設問 得点/問題	採欠												正答	
		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
9	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
12	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
36	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
38	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
40	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
13	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
16	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
39	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
41	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
7	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
34	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
10	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
14	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
33	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
43	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
46	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
4	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
8	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
31	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
32	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
42	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
47	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
15	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
11	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
35	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
37	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
44	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
1	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
45	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

欠席	5
平均点	7.4
正答人数	29 26 25 25 24 22 22 21 17 14 13
正答人数比	90 81 78 78 75 68 68 65 53 43 40
誤答人数	3 6 7 7 8 10 10 11 15 18 19

---

数	正答率%	誤答数
11	100	0
11	100	0
11	100	0
11	100	0
11	100	0
10	90.9	1
10	90.9	1
10	90.9	1
10	90.9	1
9	81.8	2
9	81.8	2
8	72.7	3
8	72.7	3
8	72.7	3
8	72.7	3
8	72.7	3
7	63.6	4
7	63.6	4
7	63.6	4
7	63.6	4
7	63.6	4
7	63.6	4
7	63.6	4
7	63.6	4
6	54.5	5
5	45.5	6
5	45.5	6
5	45.5	6
5	45.5	6
3	27.3	8
0	0	11
0	0	11

---

他教科との自己評価の比較  
3年A組

NO	氏名	項目	国	社	数	理	英	備考
9		A	3	2	2	3	2	
		B	3	2	5	4	3	
		C	1	1	1	2	1	
37		A	2	2	3	3	3	
		B	3	3	3	3	3	
		C	2	2	1	1	3	
		A						
		B						
		C						
		A						
		B						
		C						
		A						
		B						
		C						